

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	たけのこキッズ児童発達支援センター			
○保護者評価実施期間	令和8年1月5日	～	令和8年1月31日	
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	39名	(回答者数)	37名
○従業者評価実施期間	令和8年1月5日	～	令和8年1月31日	
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数)	11名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月2日			

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児童一人ひとりの発達段階や特性に応じた個性のある支援を提供している点	個別支援計画の目標を日々の活動に反映できるよう、職員間でのケース共有や振り返りを行い、児童の変化に応じた柔軟な支援調整に努めている。また、活動内容を固定化せず、発達段階や興味関心に合わせて環境設定や関わり方を工夫している。	支援の根拠や評価視点をより明確にするため、専門職の助言や研修機会の活用を進め、支援の質の均一化および専門性向上を図っていく。
2	保護者との連携および相談支援体制を重視している点	送迎時の対話や連絡帳等を活用し、日常的な情報共有を行うことで保護者が相談しやすい関係づくりに努めている。また、必要に応じて面談機会を設け、家庭状況を踏まえた支援調整を行っている。	保護者への情報提供方法や相談機会の多様化を検討し、事業所の取組の見える化や支援理解の促進につながる発信の充実を進めていく。
3	関係機関との連携による切れ目のない支援体制の構築	園・学校・関係専門職との情報共有を行い、支援方針の共有や引継ぎの円滑化に努めている。また、地域の支援資源を把握し、必要に応じて連携調整を行っている。	連携機会の定期化や記録・共有体制の整理を進め、より継続性のある協働支援体制の構築を目指していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援内容や事業所の取組に関する情報発信の充実	保護者への個別の情報共有は行っているものの、事業所全体の取組や支援の意図について発信する機会が限定的であり、理解促進につながる情報提供が十分とは言えない部分がある。	発信内容や方法の整理を行い、継続的に情報提供できる体制の整備を進めることで、支援理解の促進および地域への周知強化を図る。
2	地域との交流・地域資源との関係づくり	関係機関との連携は行っているものの、地域住民や地域活動への参加・交流機会については実施機会が限定的であり、地域に開かれた事業所としての取組に広がりや余地がある。	地域行事への参加や情報発信の強化等を検討し、地域との接点を増やすことで、事業所理解の促進および交流機会の充実につなげていく。
3	支援の質の標準化・共有体制	個性性を重視した支援を行う一方で、支援の意図や方法の共有が不十分な場合、職員間で理解に差が生じる可能性がある。	支援方針の共有機会の充実や記録・引継ぎ体制の整理を進めることで、共通理解に基づいた安定した支援提供体制の構築を目指していく。